

庭野平和財団 2009 年後期助成  
報告書(2009 年 9 月～2010 年 8 月)

コード番号:09-A238  
NPO法人セイピースプロジェクト

## § 1. 活動の背景・目的

現在、「核兵器の廃絶」を求める国際的な機運がかつてない高まりを見せています。「核兵器のない世界」を公約に掲げ誕生した米オバマ大統領は、2009年4月5日ブラハでの演説において、米国は「核兵器のない世界に向けた具体的措置を講じる」と述べ、その決意を再確認しました。

しかし一方で、ここ東アジアの状況を省みると、このような時代の流れとは逆行するような軍事的・政治的緊張関係が相変わらず存在しています。この間も、尖閣諸島漁船衝突事件、韓国延坪島砲撃事件などを契機として、脅威と威嚇の連鎖がこの地域によりいっそうの軍拡競争を招いています。このような動きは世界的な核軍縮の流れに逆行するばかりか、流れをせき止めるような要因となりかねません。

私たちに求められているのは、相互不信による軍拡競争ではなく、相互の信頼関係にもとづいた北東アジアの非核化、そして「軍事によらない」安全保障体制をこの地域に実現することです。そのために私たちは「北東アジア非核兵器地帯構想」が具体的かつ実現可能性の高い策として必要だと考えます。

世界的な核廃絶の機運という追い風を受けて、昨年5月には核軍縮における最も重要な会議の一つであるNPT再検討会議が開催されまして、「北東アジア非核兵器地帯構想」実現に向けて、私たちにはまたとない好機でした。来るべき国際会議へ向けて、また現在も、私たちは北東アジアの非核化を求める市民の声をよりいっそう大きくしていかなければなりません。しかしながら、このような核軍縮に関する動きは私たち市民にとってあまり身近なものではなく、核軍縮という話題に対する社会的関心は高いとはいえないのが現状です。

そこで私たちは、今回の事業において、大学生を対象にした「核軍縮教育」活動、「北東アジア非核兵器地帯構想」を国内外にアピールしていくキャンペーン活動、各種イベントやスタディツアー・フィールドワークの開催を通じて、核軍縮の問題に対する幅広い層の市民の問題意識を高揚させ、特に若者を対象とした取り組みを充実させることで若者の政治参加を促進し、「北東アジア非核兵器地帯構想」を求める世論を形成していくことを目指した。核軍縮の問題に対する幅広い層の市民の問題関心を喚起すると同時に、核兵器に関する社会全体の認識を深めること。そして、そうして高揚した社会的関心を背景に市民のネットワークを拡大していくことを通して、「北東アジアの非核化」を求める大きな潮流を

作り出すことができると考えました。

また、こうした活動を10代、20代の若者が主体となって行うことで、将来にわたって平和や安全保障の問題に取り組む人材の育成を目指します。さらに、日本国内だけでなく、アジア、世界の平和や安全保障への関心を共有する若者との交流を活発化させることで、将来における国境を越えた市民社会の形成につながるものとしています。

私達は以上の目的・目標をもって、1年間この事業に取り組んできました。

## § 2. 活動の実施経過と成果

(年月日)	(実施内容)
2009年8月～9月	各種イベント開催のための準備
10月	第1回核軍縮セミナー開催 プロジェクトスタッフ募集説明会の開催
11月	濱谷正晴さん講演会開催 大学での出張授業
12月上旬	第2回核軍縮セミナー開催
1月	街頭やイベント会場でのキャンペーン活動
2月	地球市民集会ナガサキへの参加 長崎スタディツアー実施 バーバラ・ストライブル (BANg) さん講演会 核軍縮リーフレット発行
3月	キャンペーン活動の展開
4月	プロジェクトスタッフ募集説明会の開催
5月	NPT再検討会議、国際会議でのアピール

### ■核軍縮セミナーの開催

被爆者の話、ワークショップやNGOの講演などを通して、核兵器とはいかなるものなのか、それはいまいかなる現状にあるのか、そして核兵器をいかに廃絶していくことができるのかといったことを学び、考える「核軍縮セミナー」を2回開催し、それぞれ30人～50人の参加者が集まりました。

#### ●第一回核軍縮セミナー「YES PEACE! —「核兵器のない世界」のつくりかた—

10月25日に早稲田奉仕園で開催した第1回目核軍縮セミナー「YES PEACE! —「核兵器のない世界」のつくりかた—」では午前中に被爆者の方のお話を聞き、午後に講演会とワークショップを行いました。午前中の被爆者のお話は、講演会形式ではなく、少人数の

グループ形式にしたことで、より身近に被爆体験を学ぶ場を作ることができました。参加者からも「目が合う距離で聞く被爆体験のお話は、より身近でリアルで、被爆者の方の強さや想いが伝わってきた」といった声が聞かれました。午後はNPO法人ピースデポ代表の湯浅一郎さんをお招きして、クイズや講演、ロールプレイなど盛りだくさんのプログラムで核兵器の問題をわかりやすく、楽しく扱いました。特に東アジアの国際情勢を追体験するロールプレイは初の試みにもかかわらず好評でした。これは、94年から2000年代前半までの東アジアの核問題をめぐる国際情勢をシナリオ化し、各グループでそれぞれ米国、日本、北朝鮮、韓国、ナレーター役を割り振られた参加者がそれを朗読していくというワークでショップです。台詞をカード式にして参加者に配り、自分の順番が来るまでどのような台詞が用意されているのかは分からない状態でロールプレイが進んでいくため、読みながら自分の予想と実際の発言との同じ点や違う点が浮き彫りになりました。こうした手法は参加者からも反応が良く、「歴史がまとめられていて分かりやすかった」「日本のスタンスが良く分かった」「普段意識していない重要な事を改めて考えるよい機会になりました」などの感想がありました。

## ●第二回核軍縮セミナー「核兵器のない世界のつくりかた」～国際社会とNGOと私たち～

12月19日に開催した第2回核軍縮セミナー「核兵器のない世界のつくりかた～国際社会とNGOと私たち～」では午前中に第五福竜丸記念館を見学、主任学芸員の安田和也さんに解説をしていただきました。安田さんは、第五福竜丸が被爆した当時の日本の様子・事件のあらましとその後について、展示館内のパネルなども利用しながら丁寧に語ってくださいました。その語りからは第五福竜丸が被爆したことの意味を問い続ける静かな情熱が感じられ、参加者はその説明に聞き入ってしまいました。

午後の部では、ワークショップと講演会を行いました。ワークショップでは、NPT体制を軸に、国際社会がどのように核兵器に向き合ってきたのかを、同じロールプレイの手法で学びました。数名ずつのグループに分かれ、参加者がそれぞれアメリカ・日本・南アフリカ・ニュージーランド・NGOなどの役になりきり、用意されたセリフを読み上げながら、これまでの核兵器をめぐる世界情勢を追体験しました。

終了後には、「南アフリカの役をやっていると、アメリカがむちゃくちゃな主張をするのがよく分かった」という感想、また「同じアメリカの同盟国なのに、どうして日本とニュージーランドでは、こんなに言っていることが違うんだろう？」といったような疑問が出てきました。様々なアクターの視点に立って眺めることで、初めて気がつく発見があったと思います。また、情勢が大きく変わる局面では、それぞれのアクターがどうしてこのような行動をとったのか、といったことを考えると同時に、ではどうすべきであったのか、ということについても話し合いました。それを通じて、これから核軍縮を進める上で何が必要であるのか、ということに関しても、参加者同士で様々な意見を出し合うことができ

ました。

後半の講演会では、NPO 法人ピースデポの事務局長でいらっしゃる中村桂子さんにお話を頂きました。中村さんは、現在の「核兵器のない世界」を目指す世界的な潮流を踏まえた上で、NPT2010、およびその先の世界において、「私たち」はどのようにして核兵器に関わっていくべきなのか、ということについてお話し下さいました。

今日の「核兵器のない世界」を求める声の高まりは、核軍縮・核廃絶を達成するにあたって、かつてないチャンス到来だと言えます。しかし、本当に核兵器がいない世界をつくるには、「核兵器は人間と共存できない」という強い思いに立脚した核軍縮運動が不可欠であると、重ねて強調されていたのが印象的です。一人ひとりから、地域、世界へと、どのように核軍縮の輪を広げていくのか。中村さんが講演の最後で仰っていた、「あなたなら、どう伝えますか？」という問いかけに、私たち一人ひとりが今、真剣に向き合わなければいけないのだと、強く感じた一日でした。

#### ●八王子平和強化月間イベント「いま〈ヒバクシャ〉を考える——広島・長崎から「核のない世界」へ」

11月21日に、自治労八王子市職員組合、八王子被爆者の会、生活クラブ運動グループ八王子地域協議会と共催で、広島・長崎への原爆投下、そして被爆者が私たちに何を訴えるのかといったことを考えるイベントを八王子学園都市センターで開催しました。

まず、当日の午後からは、長崎の被爆遺構・旧浦上天主堂の写真展「まぼろしの世界遺産 浦上天主堂」と絵画展「平和の祈り 神田周三遺作展」を開催しました。どちらも現在ではなかなか見ることのできない貴重な作品で、多くの来場者が訪れ、鑑賞していました。

夕方からは、長年被爆者の聞き取り調査を行ってこられた濱谷正晴教授（一橋大学）をお招きして、講演会を開催しました。濱谷さんは、13000人分の「原爆被害者調査」（日本被団協、1985年）の分析を通して、原爆が人間に何をもたらしたのか、被爆者はそれにどう向き合ってきたのかといったことをお話しされました。原爆投下の極極限状態の中で被爆者が感じていた〈罪意識〉や〈無感動〉、戦後被爆者が体験した様々な苦しみ・生きる意欲の喪失、その中で〈反原爆〉が被爆者の生きる支えになっていくといったお話などがとても印象に残っています。

被爆者の「思い」、そして濱谷先生の「思い」に、参加者は深く感銘を受け、写真展、絵画展も合わせて、イベント全体として核廃絶への思いを共有する場をつくることができたのではないかと思います。

#### ●ヨーロッパの若者反核運動に学ぶ—バーバラ・ストライブルさん（BANg）講演会—

ヨーロッパの若者による反核運動の新しい取り組みである「核兵器禁止ヨーロッパ若者ネットワーク（BANg）」のメンバーとして、ドイツから来日されている若者アクティビス

トであるバーバラ・ストライブルさんをお招きして、講演会を開催しました。

バーバラさんはあるとき同級生が、広島・長崎で何が起こったかを発表したのを聞いて、核兵器はなくさなければならない、と行動しはじめ、2005年に結成された核兵器禁止ヨーロッパ若者ネットワーク（BANg）に加わったこと、そのなかで、一人一人の思いを木のブロックに託して積み上げた9万に達する「国際法の防御の壁」を制作したり、「ファスレーン365」の行動に参加したりするなど、指導部や固定メンバーを置かないゆるやかなネットワークのなかで情報を交換しながら、創意あふれる活動を展開していることを紹介されました。

会場には核兵器の問題に取り組んでいるさまざまな団体の若者があつまり、バーバラさんのお話に刺激を受けていました。また、互いの問題意識や活動について意見交換を行いました。国境を越えてつながる若者のネットワーク形成の端緒となるイベントだったのではないかと思います。

#### ■出張授業の開催

この間は、東京経済大学の本橋哲也教授の授業で北東アジアの非核化について講義させていただく機会がありました。90分の講義形式は初めてでしたが、真剣にメモをとっている学生もいるなど、反応は上々でした。また、来年度以降に向けて高校での出張授業の打診にとりかかっています。ロールプレイは一つの手法として確立してきており、すこしずつ核軍縮教育の実践を積み重ねています。今後も手法の研究を進めて行きたいと思えます。

#### ■「第4回核兵器廃絶—地球市民集会ナガサキ」への参加、長崎スタディツアーの実施

2010年成2月6日～8日に長崎市で開催された「第4回核兵器廃絶—地球市民集会ナガサキ」にNGOとして参加しました。国内外からNGOや市民団体の関係者があつまり、自治体のバックアップ、そしてのべ3,833人の参加者のもと、集会が開催されました。分科会、全体会議では、それぞれのテーマの現状や課題、方向性などについて参加者とコーディネーター、パネリストとの間で活発な議論がなされました。閉会集会では、核兵器禁止条約や北東アジア非核兵器地帯創設への交渉着手など、核廃絶に向けた具体的行動を各国指導者らに求めた「長崎アピール」を採択しました。NPT再検討会議に向けて被爆地からアピールができたと思えます。

また、地球市民集会のあとにセイピースのメンバー約10名で長崎スタディツアーを実施しました。各種資料館（原爆資料館、国立長崎死没者追悼平和祈念館、岡まさはる記念館）訪問、山里地区FW（平和公園、山里小学校、浦上天主堂など）、城山地区FW（爆心地公園、城山小学校など）、被爆者のご講話、長崎の平和運動についてのご講演（芝野由和さん）、長崎の平和教育についてのご講演（山川剛さん）という多岐にわたる内容でした。被爆者のお話には参加者は衝撃を受け、あらためて原爆被害の実相を肌で感じていました。その

ような中で、長崎で被爆教師として平和教育に取り組まれてきた山川剛さんのお話は、これからの未来、そして私たちの活動を考えていく上で非常に大切な視点を提供してくれたと感じました。

### ■キャンペーン活動の展開

NPT 再検討会議に向けて、日本から北東アジアの非核化をもとめる声をあげていくキャンペーン活動を展開しました。その活動の軸は署名集めです。「核のない世界、北東アジアを求めると題した今回の署名は、国連の潘基文事務総長、NPT 再検討会議のリブラン・N・カバクテュラン議長に対し、2010 年 NPT 再検討会議において核兵器禁止条約の交渉開始や北東アジア非核兵器地帯実現の促進が合意されることを求める内容としました。

2010 年 1 月から原宿駅前や下北沢駅前など街頭での署名集めを開始、2 月からは WEB 署名も実施し、広範に宣伝・呼びかけを行いました。結果的に約 700 筆の署名を集めることが出来ました。署名の数もさることながら、署名を通じてメンバーが増え、新たなつながりが出来たことも大きな成果だったと思います。

キャンペーン活動では、その他にも核問題や「北東アジア非核兵器地帯構想」についてわかりやすく解説したリーフレットの作成・頒布、核兵器禁止ヨーロッパ若者ネットワーク(BAN g)との共同ポストカードキャンペーンなど、核軍縮機運の高揚の中で、幅広い活動を展開することが出来ました。

### ■NPT 再検討会議

5 月 3 日から 28 日まで開催された今回の NPT 再検討会議には、NGO として世界 121 団体から 1500 人の個人が参加、5 月 2 日には約 2 万 5 千人の規模のデモが行われるなど、世界中から多くの人が集まり、「核廃絶」を訴えました。セイピースからは代表として 2 人が参加し、署名の提出、一般討議・本会議の傍聴、NGO の開催するワークショップへの参加、世界の NGO 活動家との交流などを行ってきました。

私たち NGO の側は、今回の会議開催にあたり、「核兵器禁止条約 (NWC)」の交渉開始に向けて強い決意と情熱を持っていました。各国の NGO はワークショップを始めさまざまな場面で NWC に言及し、強くこれを主張していました。また、各国の一般演説の中でも多くの国が NWC または「潘基文国連事務総長の 5 項目提案」に対する支持を表明するなど、NWC の交渉開始に向けた機運の高まりを感じることができました。

結果的に、採択された最終文書の中では核兵器禁止条約への言及は極めて限定的にしかなされず、核兵器保有国の核兵器の長期保有の意図が明確となる内容となってしまいました。中東決議の履行など一定の前進も見られました。私たちは、次の戦略を考える段階にあると言えるでしょう。

### ●「北東アジア非核化」へ向けた、日韓の取り組み

今回の NPT におけるもう一つの大きな経験は、私たちセイピースを含む日韓 NGO6 団体の共催で北東アジア非核兵器地帯のワークショップを開催したことです。日韓の国会議員、長崎市長を初めとする非核宣言自治体協議会の自治体首長、非核国ニュージーランドの市長らが参加するという、まさに市民社会、NGO、国会議員、自治体が協力した形で行われ、多くの参加者が集まりました。

今回のワークショップは、北東アジア非核兵器地帯の実現の一步に過ぎませんが、それもピースデポをはじめとする日本の NGO が行ってきた地道な活動や働きかけの積み重ねの上に達成できたものです。非核兵器地帯実現への道のりはまだまだ遠いですが、私たちは今後も一つ一つ地道な取り組みを行っていくと共に、非核兵器地帯を求める声やネットワークを広げていかなければならないでしょう。とりわけ今後、日韓の協力関係はよりいっそう重要になってきます。

### § 3. 活動の成果と今後の課題について

今回の事業を通して、核兵器の問題または北東アジアの非核化に関する一定の世論喚起、特に若者の間での関心の喚起を行うことができました。日本においては、広島・長崎については広く教育もされており、メディアなどで取り上げられることが多いため、核兵器が良くないという一定の反核世論があります。しかし重要なのは単に「核兵器＝悪」というレベルの認識にとどまるのではなく、現在の核兵器の問題と核軍縮への取り組み、そして日本の核政策における矛盾（非核三原則と米への核依存など）について問題意識をもつことであり、北東アジアの緊張関係とその解決策としての非核兵器地帯の可能性について知ることです。私達はこのことをつよく意識して、これまでの活動にとりくんできました。今回の事業を通して、このことについては一定の認知を拡大することが出来たのではないかと思います。

またこうした活動を通じて、既に核問題にとりくんでいるさまざまな団体や若者とのつながりをつくることができたという意味で、ネットワーク形成においても前進することができました。こうした動きはまだまだ小さなものですが、こうした取り組みのひとつひとつの積み重ねが、やがて日本政府を動かし、北東アジアに非核兵器を実現させる力となるのです。

しかし一方で、こうした活動はそうした市民の広範な層が北東アジア非核兵器地帯を求めるところには、未だ至っていません。そもそも核軍縮の分野は多分に政策的側面が強く、一般にはわかりづらいものとして、忌避感をもたれがちです。また政治的な話題自体に対する社会的関心が高くない状況で、啓蒙的な活動だけでは不十分であるという限界性も見えてきました。また私たち自身の活動の担い手も、もっと増やしていく必要を感じています。

こうした限界を突破するためには、反核世論をよりいっそう広くつくりだしていく取り組みをする必要があるでしょう。私達は、その取り組みのひとつが、「平和教育」であると考えています。これはつまり、イベントやキャンペーン活動だけではなく、本格的に教育現場にはいっていくことで、平和の世論をしたから作り上げていくことを意味します。こうした教育活動をNPOが、教育現場と連携して行うことで、新しい可能性が見えてくるのではないか、そういう思いでこれからの活動を展開していきたいと考えています。またそうした活動を通して、私たちの活動の担い手を増やしていくことが、運動の発展にも必要不可欠だと考えています。

担当：新田哲史



## 活動の写真記録

### ◆「核のない世界、北東アジアを求め」国際署名

Solidarity among the Asian Youth for Peace PROJECT. SAY-Peace PROJECT

HOME セイブースとは? 活動紹介 イベント情報 参加する 支援する Blog Link Contact

#### 「核のない世界、北東アジアを求め」国際署名

> [English ver.](#) (Link of "International petition for a Nuclear Weapon-Free World and a Northeast Asia Nuclear-Weapon-Free Zone")

##### 1) 趣旨及び呼びかけ

現在、「核兵器のない世界」を求める国際的な潮流が大きな高まりを見せています。そのなかで今年5月、NPT(核不拡散条約)再検討会議がニューヨークの国連本部で開催されます。5年に一度開かれるこの会議は、今後の核軍縮の方向性を決定する、とても重要な会議です。私たちセイブースプロジェクトでは、来るべき会議に向けて、この「被爆国」日本、そしてアジアから世界の非核化を実現していくために、核兵器のない世界、そして北東アジアの非核化を求める国際署名を開始しました。



##### NPT再検討会議って?

核拡散防止条約(NPT: Nuclear Non-Proliferation Treaty)は核兵器の拡散防止と核軍縮を目指す国際条約です。現在約190ヶ国が加盟しており、数ある軍備管理・軍縮条約の中でも最も加盟国が多い条約です。NPTは、条約の運用状況を検討するために5年ごとに加盟国による会議を開催しています。それがNPT再検討会議です。オバマ政権発足後初めて開かれる今年の再検討会議は、これまでになく注目を集めています。

##### 2) 個人情報取り扱い

メールフォームへの記入に際し、氏名、メールアドレス等の個人情報を入力いただきます。個人情報の取り扱いについては別途定めるNPO法人セイブースプロジェクトのプライバシーポリシーに則ります。  
→プライバシーポリシーは[こちら](#)

##### 3) 送付先その他

集められた署名は、セイブースプロジェクトがニューヨークで開催されるNPT再検討会議に提出します。

#### 署名本文

国際連合 潘基文事務総長様  
NPT再検討会議議長 リブラン・ノ・カバチュラン様

#### 「核のない世界、北東アジアを求め」国際署名

21世紀となった現在も核兵器はまだに世界に約2万3千発も存在し、今なお人類は、核兵器の脅威から解放されていません。ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ、ノーモア・ヒバクシャ。この訴えは、核兵器廃絶と恒久平和を願う私たちの心からの叫びです。私たちは、一日でも早く「核兵器のない世界」を実現するため、2010年NPT再検討会議において、全ての国の政府が「核兵器禁止条約」の早期締結に向けた交渉の開始について合意するよう求めます。また私たちは、60年以上も核兵器の脅威に苦しんできた東北アジア地域の平和と安定を確固たるものにするため、北東アジア非核兵器地帯の設立を求めます。南半球の陸地の引け全てと海洋の3分の2はすでに非核兵器地帯になっています。私たちは、2010



◆「核兵器廃絶——地球市民集会ナガサキ」への参加



◆NPT 再検討会議への参加

